

## 令和4年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ 普段の作文などにおいて漢字を使える部分に関しては使うようになってきている。
- ・ メモの取り方、話を聞く姿勢は定着してしつ々ある。

#### (2) 課題

- ・ 文章を粘り強く読むことができない生徒が多い。
- ・ 自分で文を書く場面での既習の漢字の使用などにはまだ課題が残る生徒もいる。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 正答率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	全ての観点において区 の平均正答率を下回っ た。	/	/
第2学年	全ての観点において区 の平均正答率を下回っ た。	(第1学年時)	/
第3学年	全ての観点において区 の平均正答率を下回っ た。	(第2学年時)	(第1学年時)

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均に比べ、知識・技能 の観点の正答率が14.3ポ イント低い。	区の平均に比べ、思考・判 断・表現の観点の正答率は1 4.5ポイント低い。	区の平均に比べ、主体的に学 習に取り組む態度の観点の 正答率が14.9ポイント低 い。

##### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均に比べ、知識・技能 の観点の正答率が7.8ポ イント低い。	区の平均に比べ、思考・判 断・表現の観点の正答率は 9.4ポイント低い。	区の平均に比べ、主体的に学 習に取り組む態度の観点の 正答率が17.2ポイント低 い。

##### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均に比べ、知識・技 能の観点の正答率が11.5 ポイント低い。	区の平均に比べ、思考・判 断・表現の観点の正答率は 9.8ポイント低い。	区の平均に比べ、主体的に 学習に取り組む態度の観点 の正答率が10.7ポイント

		低い。
--	--	-----

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法・語句に関する知識が定着するよう、文章を読む際や書く際に、関連付けて指導していく。	説明的な文章の内容を的確に読み取るため、言葉の意味や指示する語句、接続する語句などに注目するよう指導していく。	文章を最後まで粘り強く読むように指導していく。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字を書くこと、文法、情報の扱い方、古典分野において低い。継続的に漢字テストや文法指導を行って生徒自身の意識を高め、着実に知識を身につけられるよう指導する。	文学的な文章の読み取りは平均レベルを若干下回る程度だが、説明的な文章の読み取りは苦手である。また、文章を書く力が著しく低く、区の平均を14ポイントも下回っている。対策としては、話す・聞く・書く・演じるといった、表現の楽しさを味わう機会を多く設け、書くことへの抵抗感をなくし、総合的に学力の底上げをはかっている。	区の平均を17ポイントも下回り、観点別では最大のウィークポイントであるが、今回の調査では「書くこと」の中で「主体的に学習に取り組む態度」を評価しているため、やはり記述力の弱さが表れた結果と思われる。また、授業中の学習に向かう意欲や向上心が総じて低いことも気になる。授業改善ポイントとしては、生徒が意欲的に取り組める課題や自身の変容や上達を実感できる課題を設定し、主体的な参加を促すことが肝要と思われる。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法・語句に関する知識が定着するよう、文章を読む際や書く際に、関連付けて指導していく。	文学的な文章における、登場人物の心情や場面設定を読み取れるよう、叙述に即して考えるよう指導していく。	作文の問題においては、まったくの無解答にならないよう、粘り強く指導を続ける。